

令和3年度 業績評価結果の概要について

令和4年9月29日
全学業績評価委員会

○実施の目的

琉球大学では、以下の3点を通じて教員の教育研究意欲を一層向上させることを目的として、教員の業績評価制度を令和2年度から導入している。

- ・ 目標設定を通じて、大学として期待する成果や行動についての共通理解に資する。
- ・ 評価結果のフィードバック等により、人材育成に資する。
- ・ 学部長等と個々の教員の円滑なコミュニケーションの向上に資する。

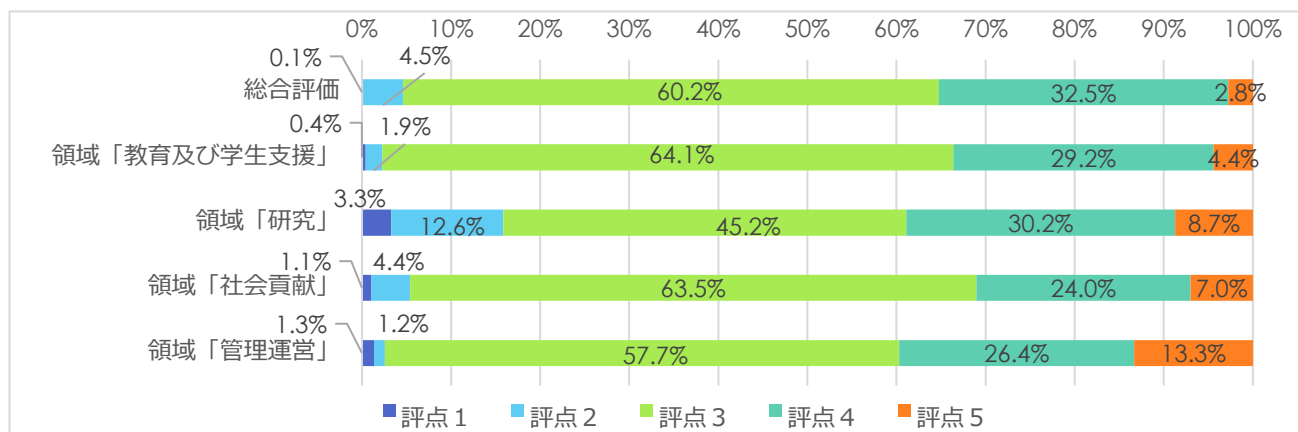
○実施概要

令和3年度業績評価については、以下のとおり実施した。

- ・ 評価期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日
- ・ 評価領域：「教育及び学生支援」「研究」「社会貢献」「管理運営」の4領域の業績を対象に評価。
※医学部、医学研究科、病院及びグローバル教育支援機構については、上記に加え「診療」の評価領域を設定している。
- ・ 評価対象部局：人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、教育学研究科、教職センター、理学部、工学部、医学部、医学研究科、病院、農学部、法務研究科、熱帯生物圏研究センター、研究推進機構、グローバル教育支援機構、地域連携推進機構、ジェンダー協働推進室、情報基盤統括センター
- ・ 評価方法：被評価者は年度当初に目標設定、年度末に5段階の自己評価を行った。また、それを記入した評価調書を学部等業績評価委員会に提出し、学部等業績評価委員会及び全学業績評価委員会にて調書の審査を行った。

○評価結果

評価対象教員763名について、評価を実施した。評価結果は以下のとおり。



○評価結果に対する分析

令和2年度評価と比較すると、3と評価された割合が減少（例：総合評価で7.8ポイント減少）しており、評点の中心化傾向が緩和されている。3と評価された割合が最も少ない「研究」領域と最も多い「教育及び学生支援」領域では、3の割合に18.9ポイントの差があり、「教育及び学生支援」領域では評価に差が付きづらい状況が推察される。

【参考】 評価基準

- 評点5 被評価者の職位等に照らして標準を大きく上回ると考えられる業績
- 評点4 被評価者の職位等に照らして標準を上回ると考えられる業績
- 評点3 被評価者の職位等に照らして標準的と考えられる業績
- 評点2 被評価者の職位等に照らして標準を下回ると考えられる業績
- 評点1 被評価者の職位等に照らして標準を大きく下回ると考えられる業績